

学校をつくろう!通信



第138号

学校の役割 その 117

新しい学校案内ができました。裏表紙にはこんなことが書かれています。

珊瑚舎スコールが珊瑚舎スコールで
あるために

個の尊重と協同の調和を求め続けること

授業を思索と表現と交流の場として
つくり続けること

そして

自由と自立と平和を求める人々の集う場
であり続けること

珊瑚舎スコールは公開の原則の下、活動します

三つの「続けること」の一番目、「個の尊重と協同の調和を求め続けること」について、僕は「個の尊重と協同性の追求を求め続けること」と、いろいろところで言ったり書いたりしてきました。ちょっとニュアンスが変わった書き方になっていると思います。どう違うのか、ちょっと考えてみませんか。僕はこんなふうに考えます。

それぞれの一行をいちいち引用すると煩わしいので学校案内をA、僕の方をBとすることにします。Aは「個の尊重」と「協同の調和」が並立しているわけではありません。「個の尊重と協同」が「調和」に係ります。なぜなら、協同はすでに調和という状態を含んでいる言葉だからです。だから、「協同の調和」とは言いません。並立の関係として捉えれば「個の尊重と協同」で済むことになります。つまり、「個の尊重と協同を求め続けること」でOKです。そうではないので、調和を使っているのだと思います。つまり、「個の尊重と協同」が「調和」に係っ

ているのです。「個の尊重と協同」はその結果としての「調和」に向かっているのです。調和を求められているとも言えます。

Bはどうでしょうか。Aと似ているようですが、「調和」という言葉はありません。また、協同ではなく協同性です。また、「個の尊重」と「協同性の追求」は並立の関係です。この二つを「求め続ける」と言うことです。

「協同」と「協同性」はどう違うのか。危険と危険性、動物と動物性、或いは急と急性、挙げれば切りがないです。「性」がつくと「…のような性質や傾向」というニュアンスが生まれます。人には協同性が備わっているということになります。結果として協同の状態も生まれるわけです。調和も結果としてあるもので、あらかじめ身につけているものではありません。学校案内の1ページ目にも夕日に染まった雲のように「学校をつくろう!」が浮かんでいます。(夕日に染まってるかな?)そこにも協同性と主体性について「はぐくむ」ものとしてコメントがあります。

Bは協同や調和に到る過程、プロセスを大切にする言い回しです。調和かな?と感じる心地いい一瞬は経験したことがあるかも知れません。結果として調和が訪れるかどうか、それは未知数です。だから、僕は調和を使いません。求め続けるのです。他人にではなく自分に求め続けるのです。

そんなこと言えば自由や自立や平和だってそうだろうと言う声も聞こえます。だから、「個の尊重と協同性の追求を求め続けること」を「珊瑚舎スコールであるために」の冒頭に記したいのです。(ほ)

がじゅまる しんかめちゃー



(生徒・学生のコーナーです)

去った8月1日は前期学習発表会「まにまに祭」でした。コロナ禍のもと、どのような形で発表会を作るのがいいだろうかと生徒達と模索しました。やらない事は簡単です。でもこのような状況だからこそ今出来る事をやろう、表現することを続けようとして「3密をさけ、可能な限りのマスク着用」を念頭に入場も限らせてもらっての会となりました。もちろん、参加が難しい人達もいるのでオンラインでの動画配信も同時に行いました(保護者、講師のみ)。

舞台場所も例年通りではなく、人数も少ない今だからこそ出来る形でやってみたいと生徒達が話し合いました。場所の都合で一回り小さな舞台でしたが、生徒達は舞台の上とフロアを上手に使って発表の場を作りました。今年度入学をし、6月からの通常登校授業に合わせて沖縄に来た生徒の感想を紹介いたします。

「まにまに祭」 中等部 松永 たみ

私が珊瑚舎に来たのは、5月末くらいでした。それから約2ヶ月後に行われた「まにまに祭」は、初めてということもあり発表の仕方とか準備とかが今までしてきたやり方と全然違って驚きでしたが楽しかったです。

本番は殆ど勢いに任せていたので震えが止まらない！って程の緊張はしませんでした。でも、もうちょっと準備しておけばよかったなとあとから少し後悔した部分はありました。

前の学校では、行事の準備とかを1ヶ月以上かけてしていたので、珊瑚舎では数日で一気に準備しなくちゃいけないということにすごく驚きました。

私はモンピ(珊瑚舎スコーレ入口にかける看板)を作るのもやったのですが、他の人にも手伝ってもらったおかげでいい感じに仕上げられました。前の方で踊った体育講座の発表「ソーラン節」も、楽しくてふざけ倒したシンカソングの発表もすごくみぞみぞ(ワクワク)して楽しかったです。



☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

2020年度 旅の報告会

珊瑚舎スコーレで大切にしているもののひとつに「旅の時間」があります。泊りがけでもよし、日帰りでもよし、お金をかけてもかけなくても(お金をかける場合、資金は自分で貯める)。自分が旅だと考える外出をしようというルールです。「今年は難しい状況だけれど、工夫して旅をしてきてほしい。」という言葉で、夏休み前の3日間山がんまり(校外活動)最終日にホッシーからもらいました。

後期、始業の山がんまりで始まり、翌日にはそれぞれの「旅」の報告をし合います。今年はコロナの影響もあり、実際に出かけた生徒もいましたが、インターネットの画像や、撮りためた写真を動画編集したり、新聞形式にしたりとそれぞれが趣向をこらして思い思いの「旅の時間」を作りました。家族の

体調が悪く、家事全般を任されていたある生徒は食事作りをしながら、「いろいろな国の食で旅ができるのでは？」と自分で作った数か国の食事とレシピの報告を、またある生徒は架空の地を旅する物語を自作の絵を示しながら披露してくれました。アニメ好きな生徒はインターネット上の地図を動かしながら、アニメの聖地めぐりとクイズを出していました。それぞれ工夫がされていてどれも興味深いものでした。そのうちのいくつかを紹介します。

「夏休みの旅新聞」 中等部 花城 亜彩里

今年の夏休みの旅は、首里城に行ってきました。コロナウィルスの影響もあり、長くはられませんでしたが、去年の思い出と合わせて書いていきます。去年の首里城は漆を塗り直す作業中でした。まるでお化粧直しのように見えて美しかったのを覚えています。

残念ながら去年の十月の末に火災で正殿は焼けてしまいましたが、火災に耐えた立派な大龍柱と共に並ぶ姿をまた見れることを心から願っています。

だ目的地には着いていない。

蝉も鳴かない程暑い。マスクを付けた口周りから熱が抜けない。親子連れが目立つ3階。お目当ての物が見つからない。

うろうろ彷徨う真夏日。少し気温の下がった太陽の下、リュックサックに入れた物を楽しみに自転車を走らせる。



「自転車走行記」 高等部 城間 柚花

痛い。肺が、心臓が、筋肉が「これ以上はやめてくれ」と叫ぶ。青い空に浮かぶ太陽は容赦なく照りつけ入道雲と僕を見物する。

1 か月家にいてなまりきったからだは上り坂に打ちのめされ、息が上がったまま、ゆるやかな下り坂を自転車のタイヤが転がる。見慣れた3階建ての雑居ビルを横目に走る。

公園横のやきとり屋がケムリを上げるのを見ながら、自転車を押す。道路向かいの脇道へ体が吸い寄せられる。深入りのドリップアイス珈琲がバテた体をゆっくり落ち着かせていく。ふう。とひと息。ま



ワークキャンプ・エコネット美

毎年夏休み明けには学校行事として、生徒達とワークキャンプに出かけます。今年は新型肺炎コロナウィルスの影響で、9月末までの受け入れを中止せざるを得なかったという「エコネット美(ちゅら)」（名護市）でしたが、珊瑚舎スコールで授業が再開できている状況であれば受け入れも可能だということで、予定通りのワークキャンプとなりました。

出発する少し前に緊急事態宣言が解除になり、ギリギリまで待ってのワークキャンプでしたが「こんな時だからこそ、ヌーフアのような場所で思いっきりびのびと汗を流しながら楽しい時間を過ごしてもらえますように」と嬉しいメールが届きました。

屋外の活動であるとはいえ、調理時や配膳時の気配り、検温、体調管理などに関して、コロナ感染予防の為、いくつか注意事項がありました。受け入れる側も相当気を遣って下さったと思います。

当日、那覇は快晴。マスクをしながらみんな嬉しそうにマイクロバスに乗り込みました。高速を降りる直前に雨が降り始め、初めは海で泳げない～、台風が来て途中で帰るなんて嫌だ～などと大騒ぎ(去年は台風の為、1泊ですぐ引き上げたのです)。なぜか今年は名護市のエコネット美のあたりだけが雨や雷天気。雷雲が来る前に！というスタッフの声に、合間をぬって目の前に広がる浜(ヌーフア)のゴミ掃除を全員で行い、暑さでほてった体でそのまま海や川に飛び込み遊びました。またコロナ禍のため、山がんまりでは食事作りが出来なくなって約半年。久しぶりのカマドでの火起こし、飯炊き、調理にも数人の生徒達は嬉しそうに、つきっきりで作業をしていました。

珊瑚舎の生徒が行く前に、エコネットのスタッフが2時間2人で拾ったゴミは袋にして10袋。今回はその倍ものゴミ袋があつという間にいっぱいになりました。人手があるってすごい事なんだと参加した生徒の誰もが感じたと思います。「ゴミ拾いをして完全にゴミがなくなるという事は、残念だけれどない。でも少なくすることはできる。少なくなっていったら嬉しい、そう思っずずっと拾い続けている」というスタッフの言葉も重く心に響きました。

エコネット美は嘉陽の廃村を利用した体験学習の場です。珊瑚舎スコーレの校外施設「山がんまり」のお手本になった場所です。山がんまり同様に電気、ガスはありません。でも山からの水は豊富です。初めて参加する生徒も、エコネット美にある露天風呂には大喜びです。今回スタッフから「この場を作り続けているのはどうしてか」という話をしてもらいました。珊瑚舎の生徒達にとって「山がんまりを作

り続けるのはどうしてか、山がんまりが自分達にとってどういう場になっているか」という事をあらためて意識してくれるといいなと思っています。

「遊びあり仕事あり、メリハリがあると皆動くよ」という生徒達の言葉に、私たちの山がんまりでの活動を見直す必要を、生徒スタッフ改めて感じました。

「まだ見ぬ誰かのために、今できることをする」2005年から始まった山がんまりでの校外活動。かつて在校生だった卒業生の面々が作り続けてくれた場が今、こうして目の前に広がっています。今の在校生達も、未来のまだ見ぬ誰かのために作り続けているんだ、その事を大切に思ってくれる事を願っています。(事務局スタッフ)

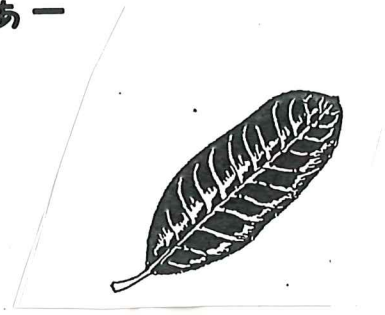


浜のゴミ拾いの後は、山の上まで30分かけて持って上がります。我こそは健脚！という人は2往復しました。



那覇帰る日。ヌーフアの浜にてハイポーズ！

ふくぎのふぁー



(講師・スタッフのコーナーです)

初・中・高等部アクト&ドラマ担当 佐辺 良和

初・中・高等部のアクト&ドラマの授業を担当しております、佐辺良和（さなべ よしかず）です。最初の授業の時に生徒に「よったま」と呼び名をつけてもらい、私自身大変気に入っております。

珊瑚舎スコーレでは演劇を通して感性や思考力を磨くことを目的に、5年に1度オリジナルのミュージカルを上演しております。来春 開校20周年と新校舎の落成祝いに、沖縄の音楽や踊りを取り入れた珊瑚舎オリジナルの「琉球ミュージカル」を上演することとなり、微力ではありますがアクト&ドラマの授業をお引き受けいたしました。

私は、現在 琉球舞踊・組踊・沖縄芝居の立ち方（演者）として活動しております。記憶のない時から踊ることが好きだったようで、6歳より琉球舞踊のお稽古場に入門をして、現在まで沖縄の芸能に携わらせて頂いています。

今回生徒達と作品を創るということは、私自身にとって初めてのことであり、生徒達にとっても人前で演技をするということは初めてに近いことだと思います。6月から始まった授業（コロナの影響により5月いっぱいにはオンラインでの授業でした）はまず沖縄の芸能を映像で紹介をし、そして「まにまに祭」には琉球舞踊「かぎやで風」を踊ってもらいました。初めて扇子を持つ子がほとんどでしたが、みんなきれいに扇子を持ってくれました。琉球舞踊の特に「古典舞踊」は動きが大変ゆっくりで、足の運びも「すり足」をつかうため普段の生活では全く行わない動きにみんな困惑していたことでしょう。ま

た、琉球古典音楽の特徴でもある母音をのばす歌い方に踊りを合わせることも難しかったと思います。ですが、5回という授業回数の中で踊りきった生徒達に私自身学ぶ所がありました。授業進める中で、4番まである「かぎやで風」を3番までにしようと思いましたが、生徒の中から「スコーレは多数決ではなく、話し合いで決めるんだよ。」と意見が出て、自主的に話し合いになりました。まずは最後まで踊りを習ってから決めるという結論を自分たちで見出し、そして「まにまに祭」では最後まで踊ってくれました。沖縄に生まれ育っても、沖縄の芸能に触れずにいる人は多くいます。この子たちがこの先琉球舞踊を踊ることはないかもしれませんが、「かぎやで風」をみんなで最後まで踊ったこと、また少しでも沖縄の歌・踊りに触れたことが将来何かのきっかけになればと思っています。10月から後期が始まり、いよいよみんなで琉球ミュージカルの創作に入ります。演じる事や舞台を作ることを生徒と一緒に模索しながら学んでいけることを、私自身とても楽しみにしています。



学校をつくろう！



卒業制作 自画像より

*2019年度「卒業を祝う会」後、3日間の校外活動「山がんまり」があります。最終日に行われる「畑の卒業式」で卒業生は自画像を読みます。そうして在校生達とともに珊瑚舎スコーレと畑からの卒業を認め合います。3月卒業した生徒の文章を5月号に続き紹介いたします。

「自画像」

東 佳祐

僕は、彼の心の中に住むもう1人の自分だ。少しの間、彼について語りたい。

彼は意見を言う時、急に右手を挙げる。肘は、曲がって静かに挙げる。挙がった事に気づくとみんなの視線が彼に向く。それと同時に話し始める。ゆっくりと言葉を探しながら声にする。耳を赤くし、手汗をかきながらも意見を言い続ける。自分が間違っているかも知れない、否定されるかもという不安は彼にはないのだろうか。多分、あるだろう。そう思った。不安があるからこそ、彼は人に寄り添う事ができていると思う。自分の意見を正当化したくないし、相手を頭ごなしに否定したくないそんな気持ちが彼にあったように思える。聞いて、伝えて、また聞く。彼がめざしていた、対話のスタイルだった。

中等部の時の彼は、こんな立派ではなかった。違うなって思う意見があっても自分の意見を押し殺し、大多数の意見に合わせていた。自分の思いを言うのも得意ではなかった。

それがなぜ今はこんなにもたくましくなったのだろうか。高3だったから？意見をハッキリ言える人に負けたくなかったから？彼を見てそれは無いと断言出来る。彼は、授業を良くしたい、毎日を楽しく過ごしたい、その強い思いで意見を言っていた。

18年間、彼を常に見てきた僕は思う。これからも、沢山のひとと意見を交わしていきと思う。日本だけではなく、いろんな国に行き、その場所その場所で違った対話をしているだろう。日本を出たら、文化も考え方も違う人ばかりだ。寄り添う事がさらに難しくなるだろう。だけど、彼は負けないってわかっている。珊瑚舎で学んだ事が数え切れないほどあるからね。僕からもエールを送る。立ち止まってもいい、後退したっていい、寄り道だってもろんいい。また、進む時のための準備としてね。



イチチ マルグム
(五つ丸雲)

★ ★事務局便り ★ ★

お知らせ

2001年4月開校した珊瑚舎スコーレ高等部は、2021年4月高等専修学校（大学等受験資格認定校申請予定）になります。

2021年4月より、NPO法人珊瑚舎スコーレ初等部、中等部、珊瑚舎スコーレ高等部（高等専修学校（認可申請中）教養学科）および夜間中学校は沖縄県南城市馬天に開校します。詳しくはホームページをご覧ください。それに伴いメールアドレスが以下のように変更になりました。

info@sangosya.com

新校舎建築と高等専修学校になるにあたり、学校案内パンフレットを新しくし、沖縄出身のイラストレーター伊波二郎さんに表紙絵をお願いしました。ご希望の方にパンフレットをお送りいたしますのでご連絡ください。

★9月から新学期が始まり、今のところ全員元気で登校しています。沖縄はまだまだコロナ感染率が高く沖縄最大の行事旧盆も自粛状況でした。夜間中学校の生徒は、もうどこにも出られないでワジワジしていたよー。学校が始まって救われたさー。とのこと。このまま過ごせればと願っています。

★ ★ ★

●今年度(8月1日～9月30日)寄付・カンパを頂いた方々

石田みどり鹿糠文子坂本和子岡村健手塚賢至照本祥敬田野寿子当山幸江森口美千恵三浦幸子山田道子助川寿美子式部恵子丹羽雅代與儀勝子与那覇晴海湯本貴和上田秀一大城喜春北上田登久子盛口佳子真津昭夫家門収一長嶺由紀子橋川由美子小渡律子幸地江美子城間あずき松茂良米子名城悦子所扶久代石野裕子矢崎智章尾崎せき松田晴代萩原真美城間栄順村上呂理伊波雅子仲里博彦下地孝野村佳雄西山哲平智海竹内新大城博長美枝子野村佳雄横山真由美宗藤遼馬吉澤かよこ西原邦男森下浩平長堂忍辻口光生田中由香子久保礼子加藤澄子友寄和子徳永桂子坂本新一郎榮野川盛正平良次子古堅苗捨垣敦子野口敏弘辰巳万里子岩間つぐ代黒川優子吉武ゆり子高柳英子泉恵子三枝日出夫見城慶和相馬由里有)ラポータ今泉美代子中村千恵子安田圭太郎麻島澄江青い鳥創業加藤愛子高橋賢造高橋恵美子志賀マサ子関正一花城和子

発行者 : 珊瑚舎スコーレ事務局 遠藤知子
住 所 : 〒900-0022 那覇市樋川 1-28-1-3F
Tel : 098-836-9011 Fax : 098-836-9070
Mail info@sangosya.com
URL : http://www.sangosya.co